

be 動詞過去形

1. be 動詞過去形の使い分け

be 動詞の現在形がわからない、知らない人はまずは be 動詞の現在形から勉強して下さい。ここからは、be 動詞の現在形を理解していることを前提として解説を進めていきます。

be 動詞の過去形には二つの種類があります。

1.am , is の場合…was

2.are の場合…were

過去形はこの二つを覚えて下さい。では例文です。現在形と同じ例文を過去形にしてみます。

例文 1. :

I was a student. (私は生徒でした。)

He was a doctor. (彼は医者だった。)

She was at home. (彼女は家にいた。)

This was an apple. (これはリンゴでした。)

That was a ball. (あれはボールでした。)

例文 2. :

You were a tennis player.

(あなたはテニスの選手でした。)

They were my friends.

(彼らは私の友人でした。)

2. be 動詞過去形の意味

現在形と同じく、二つの意味があります。

1 「～でした」

例文：

I was a student. (私は生徒でした。)

It was a book. (それは本でした。)

2 「～にいました」「～にありました」

例文：

You were in the class.

(あなたは教室にいました。)

The baseball game was today.

(野球の試合が今日ありました。)

3. be 動詞過去形の英作文

1 肯定文

主語＋述語 (be 動詞) ＋～.

基本的に現在形と同じです。

○ am , is → was

○ are → were

この変化をすれば OK です。

例文： 私は中学生でした。

⇒ これが現在形なら

I am a junior high school student.

(私は中学生です。)

⇒ am を was に変化して完成です。

I was a junior high school student.

be 動詞を変化させるだけで作れます。では、もう一問、例題をやってみます。

例文： 彼女は庭にいます。

⇒ これが現在形なら

She is in the garden.

(彼女は庭にいます。)

⇒ **am** を **was** に変化して完成です。

She was in the garden.

(彼女は庭にいました。)

さて、次は否定文に入ります。

2 否定文

主語＋述語 (be 動詞) + **not** +～.

基本は現在形と同じです。be 動詞過去形の直後に **not** をつけるだけです。

例文： 彼は先生ではありませんでした。

⇒ まず現在形で英作文

He is a teacher.

⇒ **am** を **was** に変化して、

He was a teacher.

⇒ **was** の直後に **not** をつけて、

He was not a teacher.

続けてもう一問例題をやります。

例文： **You were in the class.**

これは上で出てきた例文です。これを否定文にしましょう。またまた述べますが、be 動詞の直後に **not** をつけるだけです。

⇒ be 動詞の直後に **not** をつけるだけ。

You were not in the class. (完成)

現在形でもあったように、過去形でも **not** には短縮形があります。次の二種類を覚えて下さい。

1. **was not** → **wasn't**

2.were not → weren't

この短縮形は、
使っても使わなくても、どちらでも OK です。
だからすぐ上の例文は、

You were not a teacher.

⇔ You weren't a teacher.

どちらでも正解です。

3 疑問文

述語 (be 動詞) + 主語 + ~?

疑問文は、「～でしたか。」 「～いましたか。」を表す文です。be 動詞を文頭に持って
いっただけで疑問文が完成します。ピリオドを？にすることも忘れないで下さい。
また、答え方にもルールがあります。では、疑問文とその答え方を学習しましょう。

例文：

I was a student. (私は生徒でした。)

疑問文：

Was I a student? (私は生徒でしたか。)

変な日本語と思うかもしれませんが、be 動詞を文頭に持っていっただけで疑問文ができました。次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, +主語+be 動詞.

「いいえ」の場合

No, +主語+be 動詞+ not.

現在形の時と、全く同じです。では、すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, you were.

(はい、そうでした。)

No, you were not.

(いいえ、ちがいました。)

現在形と同じく、主語が変わることに注意してください。

答えの主語が変わる例文をもう一つ挙げます。

例文：

You were a tennis player.

(あなたはテニスの選手した。)

疑問文：

Were you a tennis player?

(あなたはテニスの選手でしたか。)

答え方：

Yes, I was. (はい、そうでした。)

No, I was not. (いいえ、ちがいました。)

質問されたので、答えるのは私。だから主語は **I** です。

次は、答えの主語が変わらないパターンです。

例文：

They were your friends.

(彼らはあなたの友人でした。)

疑問文：

Were they your friends?

(彼らはあなたの友人でしたか)

答え方：

Yes, they were.

(はい、そうでした。)

No, they were not.

(いいえ、ちがいました。)

答えで主語が変化するパターンには注意して下さい。では現在形で使用した例文をまとめて過去形にします。

疑問文：

Was he a doctor?

(彼は医者でしたか。)

答え方：

Yes, he was.

(はい、そうでした。)

No, he was not.

(いいえ、ちがいました。)

疑問文：

Was she at home?

(彼女は家にいましたか。)

答え方：

Yes, she was.

(はい、いました。)

No, she was not.

(いいえ、いませんでした。)

疑問文：

Was this an apple?

(これはリンゴでしたか。)

答え方：

Yes, it was.

(はい、そうでした。)

No, it was not.

(いいえ、ちがいました。)

疑問文：

Was that a ball?

(あれはボールでしたか。)

答え方：

Yes, it was.

(はい、そうでした。)

No, it was not.

(いいえ、ちがいました。)

4. 過去を表す言葉

「この単語があれば過去形だ」というものを紹介します。

- yesterday (昨日)
- last ～ (前の～)
- ～ ago (～前)

例文 1. : 私は昨日東京にいました。

I was in Tokyo yesterday.

例文 2. : 昨夜雨でした。

It was rain last night.

例文 3. : 二時間前彼は家に居ました。

He was at home two hours ago.

よく出てくる単語なので、しっかり覚えて下さい。

動名詞

1. 動名詞とは？

1 動名詞の形…～ing

動名詞は、動詞の原形に ～ing がついたものです。進行形でも ～ing 形を使いますが、進行形の～ing は現在分詞といい、ここで学習する動名詞とは少し違います。

2 動名詞の意味…～すること

「～すること」を意味します。不定詞の名詞的用法と同じです。

3 動名詞の働き…主語・補語・目的語

文中では名詞と同じ働きをするので、主語・補語・目的語のいずれかになります。

2. 動名詞の文

1 主語になる文

主語になる場合は「～することは」「～することが」を意味する時です。

例えば、「読書は私の趣味です。」この文の主語の「読書は」を表現する場合に動名詞使います。

では実践です。上の例文を英作文します。

まずは、「読書は」を英語に直します。読書＝本を読むこと なので、動名詞 ～ing の形を使います。すると、「reading books」この形になります。これが主語です。

例文： 読書は私の趣味です。

⇒ まずは単語に

読書は 私の趣味 です。

(reading books) (my hobby) (is).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

Reading books is my hobby. (完成)

これで完成です。「～すること」の部分で **～ing** で表すだけです。では、他の例文を挙げます。参考にして下さい。

例文：

Playing games is great fun.

(ゲームをすることはすごく楽しいです。)

Listening to music is good for your health.

(音楽を聞くことは健康に良いです。)

2 補語になる文

補語になる場合は、「～すること」を意味します。

さて、1 で学習した「読書は私の趣味です。」という文。

ここで注目して欲しいことは、今の文が第2文型になっていることです。

Reading books is my hobby.

S

V

C

第2文型は **S+V+C** の形で、**S=C** になるのが特徴でした。この文では、「読書＝私の趣味」この形が成り立ちます。

ということは、**S** と **C** を入れ替えても文が成り立つのではないのでしょうか。日本語の文で入れ替えると、

「読書は私の趣味です。」

→ 「私の趣味は読書です。」

見事に成り立ちました。実はこの形こそが、動名詞の補語になるパターンなのです。では、1 つずつ英作してみます。

例文： 私の趣味は読書です。

⇒ まずは単語に

私の趣味は 読書 です。
(my hobby) (reading books) (is)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

My hobby is reading books. (完成)

これで完成です。ではもう少し例文を挙げます。

例文：

Her hobby is making dolls.

(彼女の趣味は人形をすることです。)

Their wish is winning the game.

(彼らの願いはその試合に勝つことです。)

3 目的語になる文

目的語になる場合は、「～することを」「～することが」を意味し、次の形になっています。主語＋動詞＋動名詞＋～.では早速例文です。

「2時間前に雨が降り始めた。」

まずは、この文の述語「降り始めた」を英訳します。この「降り始めた」という表現を、少し変えて

「降り始めた」

→ 「降ることが始まった」

これで「～することが」の形になりました。これを動名詞で表すと、「**began raining**」となります。では、これを使って全文を英作します。

例文：

2時間前に雨が降り始めた（降ることが始まった）。

⇒ まずは単語に

2時間前に 雨が降り始めた。

(two hours ago) (began raining)

⇒ 天気の主語は(it)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

It began raining two hours ago. (完成)

これで完成です。ではもう少し例文を挙げます。

例文：

I like taking pictures.

(私は写真を撮るのが好きです。)

They hate telling a lie.

(彼はうそをつくことが嫌いです。)

3. 不定詞と動名詞の違い

よくある質問に、「不定詞と動名詞、どちらを使ったらいいのかわからない。」というのがあります。まったくその通りですよ。『ほとんど意味は同じだよ。』と習ったのに、いざテストではバツになっていたり・・・

分からない一番の原因は、覚えていないことです。英語は暗記です。身に付けるまで何回も繰り返し勉強する以外にありません。では、解説していきます。以下の1～4を完全に暗記して下さい。

1 動名詞・不定詞の両方 OK の動詞

- begin (始まる)
- start (始まる)
- like (好き)
- hate (嫌う)
- intend (～するつもり)
- refer (～を好む) 等

これらの動詞は、直後に動名詞との不定詞どちらでも来ることができます。

例文： 私はテレビを見るのが好きです。

[動名詞]

I like watching TV.

[不定詞]

I like to watch TV.

2 動名詞だけ OK の動詞

- enjoy (楽しむ)
- finish (終える)
- avoid (さける)
- give up (あきらめる)
- mind (気にする) 等

これらの動詞は、直後は動名詞のみ来ることができます。

例文：

He gave up buying a new CD.

(彼は新しい CD を買うのをあきらめました。)

Would you mind speaking more slowly?

(もっとゆっくり話していただけませんか。)

3 不定詞だけ OK の動詞

- want (したい)
- hope (望む)
- decide (決心する)
- expect (期待する)
- promise (約束する) 等

これらの動詞は、直後は不定詞のみ来ることができます。

例文：

She expected not to rain.

(彼女は雨が降らないことを期待していました。)

He decided to run in an election.

(彼は選挙に出馬することを決心しました。)

4 動名詞と不定詞で意味が変わる動詞

- try
- stop
- forget
- remember 等

これらの動詞は、動名詞と不定詞で意味が変わります。以下の例をみて、それぞれの意味の違いをチェックして下さい。

例文： try

[動名詞]…試しに～する

I tried writing a letter in Spanish.

(私は試しにスペイン語で手紙を書いてみました。)

[不定詞]…～しようと努める

I tried to write a letter in Spanish.

(私はスペイン語で手紙を書くよう努めました。)

例文： stop

[動名詞]…～を辞める

He stopped smoking.

(彼はタバコを辞めました。)

[不定詞]…～するために立ち止まる

He stopped to smoke.

(彼はタバコを吸うために立ち止まりました。)

例文： forget

[動名詞]…過去の出来事に対して忘れない

We will never forget meeting you.

(我々は君に出会ったことを忘れないだろう。)

[不定詞]…未来の出来事に対して忘れない

Don't forget to meet me.

(私に会うことを忘れないで。)

例文： **remember**

[動名詞]…過去の出来事に対して忘れない

I remember calling him.

(私は彼に電話したことを覚えています。)

[不定詞]…未来の出来事に対して忘れない

I remember to call him.

(私は彼に電話することを覚えています。)

以上です。動詞を覚える時は、意味だけでなくこのような用法も辞書で確認して下さい。

現在進行形

1. 現在進行形の用法

1 意味

現在進行形は＜be 動詞＋～ing＞の形で、「(今)～しています」の意味です。例えば、ちょうど本を読んでいたたり、勉強していたりしている時につかう表現です。

また、近い未来を表す時もあります。これら二つの意味がありますが、どちらの意味なのかは、文脈で判断します。

例文：

[現在形]

He plays baseball.

(彼はテニスをします。)

[進行形]

He is playing baseball.

(彼はテニスをしています。)

[現在形]

She goes to Tokyo.

(彼女は東京へ行きます。)

[進行形]

She is going to Tokyo tomorrow.

(彼女は明日東京へ行きます。)

2 ～ing 形の作り方

～ing の作り方は4つあります。必ず4つとも覚えて下さい。

1 たいていの動詞…そのまま ing をつける

- play → playing
- walk → walking
- read → reading 等

2 e で終わる動詞…e をとって ing をつける

- take → taking
- use → using 等

3 <短母音+子音字>で終わる動詞…子音字を重ねて ing をつける

- stop → stopping
- drop → dropping 等

4 ie で終わる動詞…ie を y に変えて ing をつける

- lie → lying
- die → dying 等

以上の四つが進行形の作り方です。絶対に覚えてください。

ちなみに、

- 母音→ a, i, u, e, o
- 短母音→アクセントのある a, i, u, e, o
- 子音字→母音以外

のことです。

2. 現在進行形の英作文

1 肯定文

主語＋be 動詞＋～ing ＋～.

現在進行形の英作文の間違いで一番多いのは、be 動詞を忘れることです。ing 形にするのはもちろん、be 動詞も忘れずにつけて下さい。be 動詞は主語に合わせて am, is, are のどれかを選択します。

例文： 私はテレビをみています。

⇒ まずは単語に

私は テレビを みています。

(I) (TV) (am watching)

⇒ これを 主語＋be 動詞＋～ing ＋～. に並べると、

I am watching TV. (完成)

この単元でよく出題されるのが、進行形の文に直す問題です。現在形と進行形の例文を下に挙げますので、違いを見比べて下さい。

また、「今」という言葉がつくこともありますので、その場合は文末に now をつけて下さい。

例文：

[現在形]

I play tennis.

(私はテニスをします。)

[進行形]

I am playing tennis now.

(私は今テニスをしています。)

[現在形]

You study English.

(あなたは英語を勉強します。)

[進行形]

You are studying English.

(あなたは英語を勉強しています。)

[現在形]

He does his homework.

(彼は彼の宿題をします。)

[進行形]

He is doing his homework.

(彼は彼の宿題をしています。)

2 否定文

主語 + be 動詞 + not + ~ing + ~.

進行形は be 動詞の文なので、否定文は be 動詞の直後に not をつけます。

例文： 彼女は英語を勉強していません。

⇒ まずは単語に

彼女は 英語を 勉強し していません。

(She) (English) (studying) (is not).

⇒ 主語 + be 動詞 + not + ~ing + ~. に並べると、

She is not studying English. (完成)

(= She isn't study English.)

どうですか、わかりましたか。以下に例文がありますのでしっかりと理解して下さい。

be 動詞の文を理解していれば、否定文にするのは簡単だと思います。

例文：

[肯定文]

He is reading a book now.

(彼は今本を読んでいます。)

[否定文]

He isn't reading a book now.

(彼は今本を読んでいません。)

[肯定文]

I am playing baseball.

(私は野球をしています。)

[否定文]

I am not playing baseball.

(私は野球をしていません。)

3 疑問文

be 動詞＋主語＋～ing ＋～？

疑問文の作り方も、be 動詞の文と同じです。be 動詞を文頭に持っていきます。

例文：

[肯定文]

You are walking in the park.

(あなたは公園で散歩をしています。)

[疑問文]

Are you walking in the park?

(あなたは公園を散歩していますか。)

「はい」の場合

Yes, +主語＋be 動詞.

「いいえ」の場合

No, +主語＋be 動詞＋ not.

答え方も be 動詞の文と同じです。すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, I am. (はい、しています。)

No, I am not. (いいえ、していません。)

疑問文も否定文も、be 動詞の文を理解していれば容易に理解できると思います。なかなか理解できない方は、もう一度 be 動詞を復習して下さい。

3. 進行形にできない動詞

いままで進行形を勉強してきましたが、実は進行形にできない動詞があります。それは、状態を表す動詞です。これらの動詞は、元々「～している」の意味が含まれているので進行形にはできません。

例えば、like, love, know, want, see, have 等の動詞です。

例文：

○ I know his name.

(私は彼の名前を知っています。)

× I am knowing his name.

(私は彼の名前を知っているところです。)

×の文は明らかに変です。そして、これら進行形にできない動詞で、一番よく出題されるのが **have** です。なぜなら、意味が二つあるからです。下の二つの例文を見てください。

例文：

× She is having a book.

(彼女は本を持っているところです。)

○ She is having dinner.

(= She is eating dinner.)

(彼女は夕食を食べているところです。)

have には「持つ」と「食べる」の二つの意味があります。そして、「食べる」の意味の場合だけ進行形が可能になります。もちろんその場合は、**eat** でもかまいません。

「持っている」なら OK じゃないの？と思う方も多いのですが、「手に持つ」場合は、**hold** という動詞を使います。

例文：

- × She is having a book.
- She is holding a book.

4. 疑問詞を含む文

疑問詞との複合です。難しいですね。でも、実は案外簡単ですよ。「疑問詞＋be 動詞の疑問文」の形にすれば OK ですから。

1 What +be 動詞＋主語＋～ing ＋～？

意味： 「…は何を～していますか」

疑問詞＋be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： あなたは何を勉強していますか。

疑問詞は？

“何を”があるので what が文頭
疑問詞…what

疑問文は？

残りの文「あなたは勉強していますか。」を英作文する
疑問文…Are you studying?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

What are you studying?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

I am studying English.
(私は英語を勉強しています。)

2 What +be 動詞+主語+ doing?

意味： 「…は何をしていますか」

これは文を暗記してください。

例文： あなたは何をしていますか。

⇒ What are you doing?

絶対に覚えてください。映画やドラマでもよく使われる文です。字幕でみる機会があればよく聞いてみて下さい。

進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

I am reading a book.

(私は本を読んでいます。)

3 Who + is +主語+～ing +～?

意味： 「誰が～していますか。」

疑問詞+be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： 誰がピアノを弾いていますか。

疑問詞は？

“誰が”があるので who が文頭

疑問詞…who

疑問文は？

残りの文「ピアノを弾いていますか。」を英作文する

疑問文…Is playing the piano?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Who is playing the piano?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

John is (playing the piano) .

(ジョンがピアノを弾いています。)

この場合、ジョンがピアノを弾いてることは分かりきっていますので、カッコの中は省略しても構いません。

4 Where +be 動詞＋主語＋～ing ＋～？

意味： 「どこへ～していますか。」

疑問詞＋be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： ユミはどこへ行くところですか。

疑問詞は？

“どこへ” があるので where が文頭

疑問詞…where

疑問文は？

残りの文「ユミは行くところですか。」を英作文する

疑問文…Is Yumi going?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Where is Yumi going?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

She is going to Maki's house.

(彼女はマキの家に行っています。)

ここまで学習が進むと、単語力はもちろん、文章力も必要になりますので、単語と並行して文章も暗記して下さい。

比較

1. 比較とは

比較の文は、読んで字のごとく何かを比べる表現です。2つを比べる比較級と3つ以上を比べる最上級があります。

2. 比較級・最上級の作り方

過去形を作るには動詞を変化させましたが、比較級・最上級を作るには、形容詞・副詞を変化させます。その変化の仕方は、

比較級を作るには…原級+er

最上級を作るには…原級+est

これが基本です。そして、その変化の仕方は、過去形の一般動詞と同じようにいくつかの種類分けできます。以下の変化を覚えて下さい。

1 規則変化

1 たいていの語

原級に er や est をつけます。

- tall - taller - tallest
- old - older - oldest 等

2 e で終わる動詞

原級に r や st をつけます。

- wise - wiser - wisest
- nice - nicer - nicest 等

3 <子音字+y>で終わる動詞

語尾の y を i に変えて er や est をつけます。

- happy - happier - happiest 等

4 <短母音+子音字>で終わる動詞

語尾の子音字を重ねて er や est をつけます。

- hot - hotter - hottest
- big - bigger - biggest 等

これらの変化は、一般動詞の規則変化と同じルールです。ちなみに、

母音→ a, i, u, e, o

短母音→アクセントのある a, i, u, e, o

子音字→母音以外

のことです。

2 more, most をつけるもの

音節が2つの語の一部と、音節が3つ以上の語はこれに当てはまります。また、形容詞+ly の形になっている副詞もそうです。例えば次のような単語です。

- famous - more famous - most famous
(有名な)
- important - more important - most important
(重要な)
- slowly - more slowly - most slowly
(ゆっくりと)

音節とは、音のまとまりです。辞書で確認するとすぐにわかります。例えば、difficult を辞書で調べると、dif-fi-cult こうなっています。これは音節に分けているからです。従って、difficult は3音節の単語です。

ただ、最初のうちは「長い単語は more, most 」でいいと思います。

3 不規則変化

不規則変化をする単語は、暗記以外に対策がありません。以下が例です。

- good - better - best (よい)
- well - better - best (よい)
- many - more - most (多数の)
- much - more - most (多量の)
- bad - worse - worst (悪い)
- little - less - least (少し)

よく雑誌などで、「～ベスト10」 や 「～ワースト3」 などの特集記事を見かけます。あの“ベスト”や“ワースト”はそれぞれ最上級の形です。

一般動詞の不規則変化と比べて、数はそれほど多くありません。一気に覚えて下さい。

4 2通りの変化をするもの

意味によって、2つの変化を持つ単語です。暗記して、使い分けられるようにして下さい。

late

- late - later - latest (おそい) ※時間
- late - latter - last (おそい) ※順番

old

- old - older - oldest (年をとった) ※年齢
- old - elder - eldest (年をとった) ※年の順

far

- far - farther - farthest (遠い) ※距離
- far - further - furthest (さらに) ※程度

数は多くないです。しっかりと覚えて下さい。

比較の構文

1. 原級を使う構文

1 as ～ as …

意味： 「…と同じくらい～」

例文：

You are as tall as him.

(あなたは彼と同じくらい背が高いです。)

2 not as ～ as …

意味： 「…ほど～ない」

例文：

I am not as old as you.

(私は君ほど年をとっていません。)

3 数+times+as ～as …

意味： 「…の…倍の～」

例文：

This book is three times as thick as that one.

(この本はあの本よりも3倍厚いです。)

2倍は「two times」と「twice」のどちらでもOKです。10なら「ten times」、半分なら「half times」となります。

4 not so much A as B

意味： 「AというよりむしろB」

例文：

He is not so much a lawyer as a policeman.

(彼は弁護士というよりむしろ警察官です。)

2. 比較級を使う構文

1 the＋比較級～, the＋比較…

意味： 「～すればするほどますます…」

例文：

The more we have, the more we want.

(持てば持つほど欲しくなる。)

The higher I went up, the more I felt fear.

(高く登れば登るほど、私は恐怖を感じました。)

2 比較級 and 比較級

意味： 「ますます～、どんどん～」

例文：

It is getting darker and darker.

(どんどん暗くなっています。)

3 A is no more B than C is D

意味： 「A が B でないのは C が D でないのと同じだ」

なにやらややこしいようですが、次の例文を覚えていれば対応できます。この例文のまま出題されることもよくあります。

例文：

A whale is no more a fish than a horse is (a fish).

(鯨が魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ。)

最後の a fish は、B=D の場合に省略されます。またこの文は、次の表現に書き換えられます。

A is not B any more than C is D

例文：

A whale is not a fish any more than a horse is (a fish).

(鯨が魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ。)

4 (all) the + 比較級 + for ～

意味： 「～だからますます…」

all は省略可能です。

例文：

We like him all the better for his carelessness.

(私たちは彼が間抜けだから余計彼が好きだ。)

5 no longer + 動詞

意味： 「もはや～ない」

例文：

We can no longer walk.

(我々はもはや歩けない。)

6 no more than ～

意味： 「たった～だけ」

例文：

I have no more than 1000 yen.

(私はたった1000円だけ持っています。)

7 not more than ～

意味： 「多くても～」

例文：

I have not more than 1000 yen.

(私は多くても１０００円持っています。)

6 と 7 は混乱しやすいので注意して下さい。

8 no less than ～

意味： 「～も」

例文：

I have no less than 1000 yen.

(私は１０００円も持っています。)

9 not less than ～

意味： 「少なくとも～」

例文：

I have not less than 1000 yen.

(私は少なくとも１０００円持っています。)

8 と 9 は混乱しやすいので注意して下さい。

10 much more ～

意味： 「ましてや～はなおさらである」

「～は（できて）当然だ」という感覚です。

例文：

I can speak Chinese much more English.

(私は中国語が話せます、ましてや英語はなおさらです。)

この場合、「もちろん英語も話せる」という意味を含んでいます。

11 much less

意味： 「ましてや～はなおさらでない」

「～は（できなくて）当然だ」という感覚です。

例文：

I can't speak English much less Chinese.

（私は英語が話せません、ましてや中国語はなおさらです。）

この場合、「もちろん中国語なんて話せない」という意味を含んでいます。

10 と 11 は混乱しやすいので注意して下さい。

3. 最上級を使う構文

1 the+序数+最上級～

意味： 「…番目に～」

とても便利で重要な表現です。

例文：

This is the second longest pen in the world.

（これは世界で2番目に長いペンです。）

一度見てみたいです。

2 the last ～+that …

意味： 「最も…しそうにない～」

例文：

He is the last person that we want to see.

（彼は我々が最も会いたくない人だ。）

この文は、次の表現に書き換えられます。

the last ～＋不定詞

that 節ではなく、不定詞で表現するパターンです。意味は上のものとまったく同じです。

例文：

She was the last person to tell a lie.

(彼女は最もうそをつきそうにない人でした。)

3 make the most of ～

意味： 「～を最大限に利用する」

この表現は、好条件・有利な状況の元で使うものです。

例文：

We must make the most of prosperity.

(我々は好況を最大限に利用しなければならない。)

4 make the best of ～

意味： 「～を上手に切り抜ける」

この表現は、悪条件・不利な状況の元で使うものです。

例文：

We must make the best of recession.

(我々は不況を上手に乗り切らなければならない。)

5 even の意味を含む最上級

意味： 「どんな～でさえも」

最上級に **even** (どんな～でさえも) の意味が含まれる場合があります。

例文：

The richest man can't buy time.

(どんなお金持ちでも時間は買えない。)

4. 比較級の書き換え

原級・比較級・最上級の書き換えは必ず出題されます。それぞれのパターンをしっかり理解して、例文を覚えて下さい。そうすれば、どんな問題でも応用できるようになります。

1 比較級 ⇔ 原級

○ 比較級 ⇔ not as ～ as

例文：

This book is more useful than that one.

(この本はあの本よりも役立ちます。)

⇔

That book is not as useful as this one.

(あの本はこの本よりも役立ちません。)

日本語の訳が変わっていますが、意味はまったく同じです。

この文は **more** の文を書き換えているので、書き換え前後で対象の位置(「**this book**」と「**that book**」)が変わっています。しかし、**less** の文を書き換える場合は、対象の位置は変わりません。

例文：

That book is less useful than this one.

⇔

That book is not as useful as this one.

(あの本はこの本よりも役立ちません。)

このように、日本語訳もまったく同じの文章になります。
なぜなら次のように、

A is less ~ than B ... $A < B$

A is not as ~ as B ... $A < B$

両方とも $A < B$ の意味を表しているからです。だから、A と B を入れ替える必要はありません。

○ No other + 名詞単数形 + is + as ~ as A.

⇔ A is ~ than any other + 名詞単数形.

すこしややこしく感じますが、「no other」と「any other」さえ抑えておけば OK です。

例文：

No other mountain in Japan is as high as Mt. Fuji.

(日本には富士山ほど高い山はありません。)

⇔

Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.

(日本には富士山より高い山はありません。)

2 比較級 ⇔ 比較級

○ 反意語

これは簡単です。対象の位置（下の例文では「this book」と「that book」を変えて反対の意味の言葉を使えば OK です。

例文：

This book is more useful than that one.

(この本はあの本よりも役立ちます。)

⇔

That book is less useful than this one.

(あの本はこの本よりも役立ちません。)

日本語の訳が変わっていますが、意味はまったく同じです。

○ No other + 名詞単数形 + is + 比較級 + than A.

⇔ A is + 比較級 + than any other + 名詞単数形.

下の2点に注意して下さい。

1. 対象の位置が変わること
2. No other ⇔ any other に変わることに注意

例文：

No other mountain in Japan is higher than Mt. Fuji.

⇔

Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.

(日本には富士山より高い山はありません。)

3 比較級 ⇔ 最上級

これもややこしい書き換えですが、理屈さえわかれば理解は簡単です。

例文：

Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.

(日本には富士山より高い山はありません。)

⇔

Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

(富士山は日本で一番高い山です。)

「比較級 + than any other」(ほかの何よりも～) ということは、「最上級」(一番～) ということです。

4 まとめ

1～3 まで書き換えの解説をしましたが、イマイチ覚えきれない人はこの4つを暗記して下さい。そして、書き換え問題をたくさん解いて下さい。

No other mountain in Japan is as high as Mt. Fuji.

⇔

No other mountain in Japan is higher than Mt. Fuji.

⇔

Mt. Fuji is higher than any other mountain in Japan.

⇔

Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

すべて「富士山が日本で一番高い山」ということを表現しています。

比較級

1. 比較級の英作文

A＋動詞＋比較級＋than＋B

基本となるのはこの形で、意味は「A より B のほうが～」です。なお、比較級の作り方は比較をご覧ください。

1 比較級の肯定文

比較級は、2つの物や人を比べるときに使います。

例文：

I am younger than you.

(私はあなたよりも若いです。)

He likes math better than English.

(彼は英語よりも数学のほうが好きです。)

Sleeping is more important than taking medicine.

(睡眠をとることは薬を飲むことよりも重要です。)

どうですか、すごく便利な表現です。

そして、例文の1つめのように、**than** の直後に代名詞がくるとき、その代名詞は主格でも目的格でもどちらでも構いません。ただ、意味が異なる場合があるので注意して下さい。次の例文をご覧ください。

[主 格]

I like him better than (I like) her.

(私は彼女よりも彼のほうが好きです。)

[目的格]

I like him better than she (like him).

(私は彼女が彼を想うよりももっと想っています。)

このように、わかりきった語は比較級では省略される場合が多いです。代名詞は主格でも目的格でもどちらでも構いませんが、省略されている語を考えて使い分けて下さい。

2 比較級の否定文と疑問文

これは単純です。動詞に合わせて、not や do などですべて普通に作れば OK です。

○ be 動詞の場合

[肯定文]

She is taller than he.

(彼女は彼よりも背が高いです。)

[否定文]

She isn't taller than he.

(彼女は彼よりも背が高くないです。)

[疑問文]

Is she taller than he?

(彼女は彼よりも背が高いですか。)

○ 一般動詞の場合

[肯定文]

You want books better than CDs.

(あなたは本よりもCDの方が欲しいです。)

[否定文]

You don't want books better than CDs.

(あなたは本よりもCDの方が欲しくありません。)

[疑問文]

Do you want books better than CDs?

(あなたは本よりもCDの方が欲しいですか。)

3 疑問詞を含む比較級の疑問文

○ Which is+比較級, A or B?

意味： 「A と B はどちらのほうが～ですか」

例文：

Which is higher, that building or that mountain?

(あのビルとあの山はどちらのほうが高いですか。)

[答え]

That mountain is (taller than that building).

(あの山のほうです。)

答えの (taller than that building) は省略可です。

○ Which+一般動詞の疑問文+比較級, A or B?

意味： 「…は A と B のどちらのほうが～ですか」

例文：

Which do you want better, money or honor?

(あなたはお金と名誉のどちらのほうが欲しいですか。)

[答え]

I want honor better (than money).

(私は名誉のほうが欲しいです。)

答えの (than money) は省略可です。

○ Which+名詞+一般動詞の疑問文+比較級, A or B?

意味： 「…は A と B のどちらの…のほうが～ですか」

例文：

Which season you like better, summer or winter?

(あなたは夏と冬のどちらの季節のほうが好きですか。)

[答え]

I like summer better (than winter).

(私は夏の方が好きです。)

答えの (than winter) は省略可です。

また、この Which+名詞 のパターンは、What+名詞 でも OK です。

○ Who is+比較級, A or B?

意味： 「A と B はどちらのほうが～ですか」

例文：

Which is taller, Mike or Tom?

(マイクとトムはどちらのほうが背が高いですか。)

[答え]

Mike is (taller than Tom).

(マイクのほうです。)

答えの (taller than Tom) は省略可です。

○ Who+一般動詞の疑問文+比較級, A or B?

意味： 「…は A と B のどちらのほうが～ですか」

例文：

Which do you think taller, Mike or Tom?

(あなたはマイクとトムのどちらのほうが背が高いと思いますか。)

[答え]

I think Tom is (taller than Mike).

(私はトムのほうだと思います。)

答えの (taller than Mike) は省略可です。

○ Who＋一般動詞＋比較級, A or B?

意味： 「A と B はどちらのほうが～ですか」

例文：

Who studies harder, Mike or Tom?

(マイクとトムはどちらのほうが一生懸命勉強しますか。)

[答え]

Tom does (harder than Mike).

(トムのほうが勉強します。)

答えの (harder than Mike) は省略可です。

また、Tom does. の does は、直前にでてきた study の代わり（代動詞）です。名詞の場合に、直前の名詞は one で表したように、動詞では do を使います。この場合は、主語が3人称なので es がついています。「Tom studies. 」にならないように注意して下さい。

2. 比較級を強める語

比較級を強める語が3つあります。それぞれ、比較級の直前に置きます。どれを使っても問題ありません。

1. much

例文：

I am much taller than he.

(私は彼よりもずっと背が高いです。)

2. far

例文：

He likes apples far better than bananas.

(彼はバナナよりもリンゴのほうがずっと好きです。)

3. still

例文：

He likes apples still better than bananas .

(彼はオレンジよりもリンゴのほうがずっと好きです。)

最上級

1. 最上級の英作文

主語＋動詞＋**the**＋最上級＋**of**＋複数名詞

主語＋動詞＋**the**＋最上級＋**in**＋場所・範囲

基本となるのはこの形で、意味は「…の中で一番(主語) が～」です。なお、最上級の作り方は比較をご覧ください。

1 最上級の肯定文

最上級は、3つ以上の物や人を比べるときに使います。

例文：

I am the youngest of the five.

(私は5人の中で一番若いです。)

She sings songs the best in the class.

(彼女はクラスの中で一番上手に歌を歌います。)

He is the most famous in the town.

(彼は町で一番有名です。)

in と **of** の判別は必ず出題されますので、区別できるようにして下さい。

2 最上級の否定文と疑問文

これは単純です。動詞に合わせて、**not** や **do** などですべて普通に作れば OK です。

○ **be** 動詞の場合

[肯定文]

She is the tallest in the class.

(彼女はクラスの中で一番背が高いです。)

[否定文]

She isn't the tallest in the class.

(彼女はクラスの中で一番背が高くはないです。)

[疑問文]

Is she the tallest in the class?

(彼女はクラスの中で一番背が高いですか。)

○ 一般動詞の場合

[肯定文]

He studied the hardest of the three.

(彼は３人の中で一番一生懸命に勉強しました。)

[否定文]

He didn't study the hardest of the three.

(彼は３人の中で一番一生懸命に勉強してはいませんでした。)

[疑問文]

Did he study the hardest of the three?

(彼は３人の中で一番一生懸命に勉強していましたか。)

3 疑問詞を含む最上級の疑問文

○ Which is + the + 最上級～?

意味： 「～の中でどれが一番…ですか」

例文：

Which is the most expensive of the three cars?

(３台の車の中でどれが一番高価ですか。)

[答え]

That one is (the most expensive of the three cars).

(あの車です。)

答えの (the most expensive of the three cars)は省略可です。

○ Which＋一般動詞の疑問文＋最上級～？

意味： 「～の中でどれが一番…ですか」

例文：

Which do you like the best of these cars?

(あなたはそれらの車の中でどれが一番好きですか。)

[答え]

I like that one the best (of these cars).

(私はあの車が一番好きです。)

答えの (of these cars) は省略可です。

○ Which＋名詞＋一般動詞の疑問文＋最上級？

意味： 「どの…が一番～ですか」

例文：

Which season do you like the best?

(あなたはどの季節が一番好きですか。)

[答え]

I like autumn the best.

(私は秋が一番好きです。)

この Which＋名詞 のパターンは、What＋名詞 でも OK です。

○ Who is＋最上級～？

意味： 「～の中で誰が一番…ですか」

例文：

Who is the tallest in the class?

(クラスの中で誰が一番背が高いですか。)

[答え]

Mike is (the tallest in the class).

(マイクです。)

答えの (the tallest in the class) は省略可です。

○ Who＋一般動詞＋最上級～？

意味： 「誰が一番～ですか」

例文：

Who can run the fastest of the boys?

(男子の中で一番走るのが速い人は誰ですか。)

[答え]

Carl can (run the fastest of the boys).

(カールです。)

答えの (run the fastest of the boys) は省略可です。

2. 最上級を強める語

最上級を強める語が3つあります。どれを使っても問題ありません。

1. much

the の直前に置きます。

例文：

I am much the tallest in the class.

(私はクラスの中でずっと背が高いです。)

2. by far

the の直前に置きます。

例文：

This book is by far the most interesting.

(この本はめっちゃくちゃおもしろいです。)

3. very

the の直後に置きます。

例文：

This is the very best of my works.

(これこそが私の作品の中で最高傑作です。)

付加疑問文

1. 付加疑問文の意味

さっそく例文を見てください。

例文：

You are a student, aren't you?

(あなたは生徒ですよ。)

この文末にある、「,aren't you?」が付加疑問文です。意味は2つあり、文の読み方で違ってきます。

- 最後を上げ調子…「～ですよ。」
- 最後を下げ調子…「～でしたっけ。」

ですから、上の例文は、

上げ調子で読むと、

「あなたは生徒ですよ。」

(自分もそうだろうなあと知っている。)

下げ調子で読むと、

「あなたは生徒でしたっけ。」

(あまり自信がない。)

このように区別できます。

2. 付加疑問文の英作文

1 be 動詞、一般動詞の文

作り方は意外と単純です。

○ 肯定文＋, ～ n't ＋代名詞？

意味： 「～ですよ。 ～でしたっけ。」

○ 否定文＋, ～ ＋代名詞？

意味： 「～ではありません。 ～ではないのでしたっけ。」

本文が肯定文なら not をつけて、否定文ならいいです。なお、「～ n't」は必ず短縮形を使って下さい。例文を挙げますので、パターンをつかんで下さい。

例文：

You are thirteen years old, aren't you?

(あなたは13歳ですよ。)

He likes playing baseball, doesn't he?

(彼は野球をするのが好きですよ。)

They don't like golf, do they?

(彼らはゴルフが好きではありませんよね。)

She didn't go to Kyoto yesterday, did she?

(昨日彼女は京都に行っていませんよね。)

He can speak English, can't he?

(彼は英語が話せますよね。)

You won't come to the party tomorrow, will you?

(明日君はパーティーに来なかったっけ。)

どうですか、わかりましたか。not が文に1つだけある状態にすれば OK です。

2 命令文、Let's ～の文

命令文と Let's～の文は、以下の2つを覚えて下さい。

○ 命令文＋～, will you?

意味： 「～して下さいね。」

○ Let's ～＋～, shall we?

意味： 「～しましょうよ。」

例文です。

例文：

Don't be noisy, will you?

(うるさくしたらだめですよ。)

Turn on the light, will you?

(明かりをつけて下さいね。)

Let's play soccer, shall we?

(サッカーをしましょうよ。)

命令文や Let's の付加疑問文はよく出題されます。しっかりと覚えて下さい。

不定詞

1. 不定詞の形

不定詞の形は「to＋動詞の原形」になります。to を使うので to 不定詞とも呼ばれます。

英文 1 つにつき動詞は 1 つが原則です。しかし、どうしても使わなければならない時もあります。例えば次の文を見て下さい。

例文：

「私は食べるために野菜を作っています。」

この文の動詞は、「食べる」と「作る」です。英文では 1 文につき動詞は 1 つしか使えませんが、この文には動詞が 2 つあります。こんな場合に不定詞を使います。

2. 不定詞の用法

不定詞の用法は 3 つあります。

1. 名詞的用法
2. 形容詞的用法
3. 副詞的用法

これらの意味・使い方は、それぞれのページで解説しています。

副詞的用法

1. 副詞的用法とは

1 副詞的用法の意味

「～するために」「～して」を意味する不定詞の用法を、副詞的用法といいます。

2 副詞的用法の働き

動詞・形容詞を修飾します。語順は、

- 動詞＋（～）＋不定詞
- 形容詞＋（～）＋不定詞

このような順番になります。

2. 副詞的用法の文

1 動詞を修飾

「～するために…する」を表す場合に使います。例えば、

「勝つために練習する」

この場合は、語順に注意して

practice to win

このように、「～するために」の部分を **to** 不定詞で表して下さい。

では実践です。英作文をします。

「私たちはお金を稼ぐために働きます。」

この文を英語に直します。まずは、to 不定詞で表現できる「～するために…する」の部分である「お金を稼ぐために働きます」を英語に直します。先に動詞がくる語順に注意して「**work to earn money**」この形になります。

ここからはいつもの英作で OK です。

例文：

「私たちはお金を稼ぐために働きます。」

⇒ まずは単語に

私たちは お金を稼ぐために働きます。

(we) (work to earn money)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

We work to earn money. (完成)

これで完成です。「～するために…する」の部分に to 不定詞で表現することを学んでいけば対応できると思います。

では、他の例文も見てください。

例文：

He went to the park to play with her.

(彼は彼女と遊ぶために公園に行きました。)

My mother takes cooking lessons to make cake.

(私の母はケーキを作るために料理を習っています。)

2 形容詞を修飾

「～して」を表す場合に使います。例えば、

「見て楽しい」

この場合は、語順に注意して

happy to watch

このように、「～して」の部分を to 不定詞で表して下さい。

では実践です。英作文をします。

例文：

「私はその悲惨なニュースを聞いて悲しかった。」

⇒ まずは単語に

私は その悲惨なニュースを聞いて 悲しかった。

(I) (the tragic accident) (felt sad to hear)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I felt sad to hear the tragic accident. (完成)

これで完成です。「～して」の部分を to 不定詞で表現することを学んでいれば対応できると思います。

では、他の例文も見てください。

例文：

I am very happy to pass the exam.

(私は試験に合格してとても幸せです。)

We are very glad to meet you.

(私たちはあなたに会えてとてもうれしいです。)

形容詞的用法

1. 形容詞的用法とは

1 形容詞的用法の意味

「～するための…」を意味する不定詞の用法を、形容詞的用法といいます。

2 形容詞的用法の働き

名詞・代名詞を修飾します。語順は、

○ 名詞＋不定詞

このような順番になります。

2. 形容詞的用法の文

1 形容詞的用法の英作文

「～するための…」を表す場合に使います。例えば、

「私は車を直すための道具が欲しいです。」

この文の「車を直すための道具」を表現する場合に形容詞的用法を使います。ここで注意すべき点は、順序が日本語とは逆になることです。

「～するための＋名詞」（日本語）

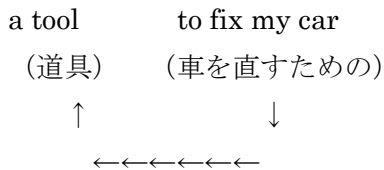
「名詞＋～するための」（英語）

このように、名詞を先に出さないといけません。

では実践です。上の例文を英作文します。

「私は車を直すための道具が欲しいです。」

まずは、「車を直すための道具」を英語に直します。先ほど述べたように、「～するための＋名詞」の名詞が先に来ますので、この場合は道具を先に置きます。



このような語順になります。ここからはいつもの英作で OK です。

例文：

「私は車を直すための道具が欲しいです。」

⇒ まずは単語に

私は 車を直すための道具が 欲しいです。

(I) (a tool to fix my car) (want)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I want a tool to fix my car. (完成)

これで完成です。「～するための…」の部分を to 不定詞で表現することを学んでいれば対応できると思います。

では次に、不定詞のある文とない文を見比べてみます。

例文：

[不定詞なし]

He bought a book.

(彼は本を買いました。)

[不定詞あり]

He bought a book to give her.

(彼は彼女にあげるための本を買いました。)

この2つを見比べたら分かると思いますが、「～するための何か」を表す時は形容詞的用法を使って表現して下さい。

2 注意すべき用法

○ -thing の語

形容詞でも触れましたが、-thing の単語は「-thing＋形容詞＋不定詞」の語順になります。間に形容詞が入ることに注意して下さい。例えば、

例文：

I want something to drink.

(私は何か飲み物が欲しいです。)

この文に「冷たい」を加えて次の文にするとします。

⇒ 「私は何か冷たい飲み物が欲しいです。」

ここでよく間違えるのが、cold の位置です。必ず「-thing＋形容詞＋不定詞」の語順にして下さい。

○ I want something cold to drink.

× I want something to cold drink.
(私は何か冷たい飲み物が欲しいです。)

○ to+動詞+前置詞

動詞の中には、前置詞が必要なものがあります。

例文：

I fight against them.
(私は敵である彼らに戦います。)

運動会での勇ましい台詞です。しかし、1人では心細いので、仲間を探すことにしました。その時に思った言葉が次の文です。

⇒ 「私は敵である彼らと共に戦う誰かが欲しいです。」

ではこの文を英作します。

形容詞的用法は「～するための…」を表現できるので、この文の「共に戦う誰か」を英訳してみます。1で学習した通り、名詞が先にきますので、

somebody to fight with

となります。ここで注目すべき点は、with が必要であることです。なぜならば、

fight with ～ = ～と共に戦う

という熟語になっているからです。では全文を英作します。

例文：

「私は敵である彼らと共に戦う誰かが欲しいです。」

⇒ まずは単語に

私は 敵である彼らと

(I) (against them)

共に戦う誰かが 欲しいです。

(somebody to fight with) (want)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I want somebody to fight with against them. (完成)

これで完成です。このように、熟語になっている場合は前置詞も必要なので、不定詞にする場合は注意して下さい。

名詞的用法

1. 名詞的用法とは

1 名詞的用法の意味

「～すること」を意味する不定詞の用法を、名詞的用法といいます。

2 名詞的用法の働き

文中では名詞と同じ働きをするので、

- 主語
- 補語
- 目的語

のいずれかになります。

2. 名詞的用法の文

1 主語になる文

主語になる場合は「～することは」「～することが」を意味する時です。例えば、

「切手を集めることは私の趣味です。」

この文の主語は

「切手を集めることは」

この部分です。「～ことは」となっているので、このような場合に名詞的用法を使います。では実際に英作してみます。まずは主語を英作します。

「切手を集めることは」

不定詞は to+動詞の原型 の形なので、

to collect stamps

この形になります。これが主語です。ここからはいつもの英作で OK です。

例文：

「切手を集めることは私の趣味です。」

⇒ まずは単語に

切手を集めることは 私の趣味 です。
(to collect stamps) (my hobby) (is).

⇒ これを 主語+述語+～. に並べると、

To collect stamps is my hobby. (完成)

これで完成です。「～すること」の部分を to～ で表すことに注意して下さい。

では、他の例文も見てください。

例文：

To study English is great fun.

(英語を勉強することはすごく楽しいです。)

To eat or drink too much is bad for your health.

(暴飲暴食をすることは健康に悪いです。)

2 補語になる文

補語になる場合は「～すること」を意味する時です。1の主語になる場合と同じ意味ですが、文中の位置が異なります。例えば、

「切手を集めることは私の趣味です。」

1で学習したという文で注目して欲しいことは、文が第2文型になっていることです。

<u>To collect stamps</u>	<u>is</u>	<u>my hobby.</u>
S	V	C

第2文型は S+V+C の形で S=C になるのが特徴です。

この文では、「切手を集めること＝私の趣味」が成り立ちます。ということは、 $S \Leftrightarrow C$ でも成り立つのではないのでしょうか。日本語の文で入れ替えると、

「切手を集めることは私の趣味です。」
 → 「私の趣味は切手を集めることです。」

見事に成り立ちました。実はこの S と C を入れ換えた形こそが、名詞的用法の補語になるパターンなのです。

では英作します。

例文：

「私の趣味は切手を集めることです。」

⇒ まずは単語に

私の趣味は 切手を集めること です。
 (my hobby) (to collect stamps) (is).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

My hobby is to collect stamps. (完成)

これで完成です。「～すること」の部分を to～ で表すことに注意して下さい。

では、他の例文も見てください。

例文：

[主語になる]

To play tennis is my hobby.

(テニスをすることは私の趣味です。)

[補語になる]

His hobby is to play tennis.

(彼の趣味はテニスをすることです。)

例文：

[主語になる]

To pass the exam is her goal.

(そのテストに合格することが彼女の目標です。)

[補語になる]

Her goal is to pass the exam.

(彼女の目標はそのテストに合格することです。)

3 目的語になる文

目的語になる場合は「～することを」「～することが」を意味する時です。目的語になる場合は次の形になっています。

主語＋動詞＋不定詞＋～.

この形でよくでてくる動詞には、

- want＋不定詞
- like＋不定詞

などがあります。では例文です。

「私は新しい服を買いたい。」

まずは、この文の述語の「買いたい」を英作します。この「買いたい」という表現を少し変えて、

「買いたい」
→ 「買うことをしたい」

この形にします。すると、これで「～することを」の目的語になる形になりました。これを不定詞で表すと、

want to buy

となります。

では全文を英作します。

例文：

「私は新しい服を買いたい（買うことをしたい）。」

⇒ まずは単語に

私は 新しい服を 買いたい。

(I) (new clothes) (want to buy).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I want to buy new clothes. (完成)

これで完成です。「～することを」の部分を **to～** で表すことに注意して下さい。

では、他の例文も見てください。

例文：

I like to go shopping.

(私は買い物に行くのが好きです。)

They tried to solve a function.

(彼は関数を解こうとしました。)

また不定詞を否定する場合は、「not to」の形にします。「don't」を使うと動詞を否定することになるので、意味が全く変わってきます。次の2文の違いに注目して下さい。

例文：

[不定詞を否定]

I decided not to make complaints.

(私は弱音を吐かないと決心しました。)

[動詞を否定]

I didn't decided to make complaints.

(私は弱音を吐く決心をしませんでした。)

一般動詞過去形（不規則動詞）

1. 不規則動詞とは？

1 不規則動詞の定義

一般動詞の過去形は「動詞の原形＋ ed (d)」で作りましたが、まったく違う形になる動詞があります。このような、原型と過去形の形が不規則に変化する動詞を不規則動詞といいます。

例文：

[現在形]

I go to the park.
(私は公園に行きます。)

[過去形]

I went to the park.
(私は公園に行きました。)

なお過去形は、主語の人称に関係ありません。

例文：

[現在形]

He buys a book.
(彼は本を買います。)

[過去形]

He bought a book.
(彼は本を買いました。)

2 不規則動詞の種類

今このページを見ている方は習っていないことが多いと思いますが、動詞には、「原形・過去形・過去分詞」の3つの形があります。その変化の仕方では区別すると、以下の4つに分類されます。

1. A - B - C 型

原形・過去形・過去分詞が全部違う動詞。

go - went - gone

see - saw - seen 等

2. A - B - B 型

過去形と過去分詞が同じ動詞。

say - said - said

buy - bought - bought 等

3. A - B - A 型

原形と過去分詞が同じ動詞。

come - came - come

run - ran - run 等

4. A - A - A 型

原形・過去形・過去分詞が全部同じ動詞。

cut - cut - cut

read - read - read （発音は異なる） 等

この4つの型を暗記することも大切ですが、何よりも動詞を1つずつ確実に暗記するほうが大切です。

2. 不規則動詞の英作文

1 肯定文

主語＋述語（一般動詞過去形）＋～.

英作文の方法は、他の肯定文と同じです。一般動詞を過去形にすれば OK です。重要なことは、不規則動詞の過去形を覚えているかどうかです。

例文： 彼女は今朝朝食を作った。

⇒ まずは単語に

彼女は 今朝 朝食を 作った。
(She)(this morning)(breakfast)(made).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

She made breakfast this morning. (完成)
(She cooked ～ . も可)

不規則動詞の変化を覚えているかどうかポイントです。

では他の不規則動詞の例文をいくつか紹介します。

例文：

[現在形]

I take a present.
(私はプレゼントを受け取ります。)

[過去形]

I took a present.
(私はプレゼントを受け取りました。)

[現在形]

He eats lunch.
(彼は昼食を食べます。)

[過去形]

He ate lunch.

(彼は昼食を食べました。)

[現在形]

Mr. Suzuki teaches English.

(鈴木さんは英語を教えています。)

[過去形]

Mr. Suzuki taught English.

(鈴木さんは英語を教えていました。)

では、次は否定文に入ります。

2 否定文

主語＋ **did not (didn't)**＋述語 (動詞の原形) ＋～.

否定文は「～でない」を表し、**not** が「～でない」の意味です。また、「**did not**」を「**didn't**」に短縮してもかまいません。

注意すべき点は、「**did not**」の直後の動詞を原形にすることです。

例文： 彼女は英語を話しませんでした。

⇒ まずは単語に

彼女は 英語を 話し ませんでした。

(She) (English) (speak) (did not).

⇒ これを 主語＋ **did not** ＋述語＋～. に並べると、

She did not speak English. (完成)

(= She didn't speak English.)

これで完成です。動詞を原形にすることを忘れないで下さい。

では例文です。

例文：

[肯定文]

I went to the station.

(私は駅に行きました。)

[否定文]

I did not go to the station.

(私は駅に行っていません。)

[肯定文]

They won the game.

(彼らは試合に勝ちました。)

[否定文]

They did not win the game.

(彼らは試合に勝ちませんでした。)

be 動詞と一般動詞の否定文の違いを理解してください。

3 疑問文

Did + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ~ ?

疑問文は、「～しましたか。」を表す文です。**Did** を文頭に持っていきだけで疑問文が完成します。ピリオドを？にすることや動詞を原形にすることを忘れないで下さい。

では、疑問文とその答え方の例文です。

例文： **She came to the party.**

(彼女はパーティーに来ました。)

疑問文：

Did she come to the party?

(彼女はパーティーに来ましたか。)

このように、**Did** を文頭に置くだけで疑問文ができました。次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, +主語+did.

「いいえ」の場合

No, +主語+did not (didn't).

すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, she did. (はい、来ました。)

No, she did not (didn't). (いいえ、来ていません。)

このように英作文の基本は、規則動詞と不規則動詞は同じです。不規則動詞のポイントは覚えることです。しっかりと暗記して下さい。

一般動詞過去形（規則動詞）

1. 規則動詞とは？

1 規則動詞の定義

一般動詞を使って過去を表すには、「動詞の原形＋ ed (d)」の形を使って、一般動詞を過去形にする必要があります。このような形で過去形になる動詞を規則動詞といいます。

例文：

[現在形]

I play tennis.

(私はテニスをします。)

[過去形]

I played tennis.

(私はテニスをしました。)

また過去形の場合は、主語の3単現に関係なく動詞の原形に ed (d) をつけます。

例文：

[現在形]

He plays baseball.

(彼は野球をします。)

[過去形]

He played baseball.

(彼は野球をしました。)

2 過去形の作り方

1. たいていの動詞

原形に ed をつけます。

play → played

walk → walked 等

2. e で終わる動詞

原形に d をつけます。

like → liked

use → used 等

3. <子音字+y>で終わる動詞

最後の y を i に変えて ed をつけます。

study → studied

carry → carried 等

4. <短母音+子音字>で終わる動詞

最後の子音字を重ねて ed をつけます。

stop → stopped

drop → dropped 等

以上の4つが規則動詞の過去形の作り方です。必ず覚えて下さい。

※母音、短母音、子音字について

たまに「母音、短母音、子音字」で混乱する方がいます。以下のことを覚えておいて下さい。

- 母音 → a, i, u, e, o
- 短母音 → アクセントのある a, i, u, e, o
- 子音字 → 上記以外

3 ed, d の発音

発音は定期テストによく出題されますので、過去形の作り方と共にしっかりと覚えて下さい。全部で3種類の発音がありますが、定期テスト対策では2つ覚えると対応できます。

1. 語尾が t, d の動詞…[id]

- wanted
- needed 等

語尾だけで判断できるのでわかりやすいと思います。実際の発音は、

語尾が t の動詞 → [〜ティド]

語尾が d の動詞 → [〜ディド]

このようになります。ただ、カタカナで表現していますので、正確なニュアンスは伝わりにくいと思います。実際に、ネイティブの方や英語の先生に発音してもらうのが一番勉強になります。

2. 語尾が無声音の動詞…[t]

- walked
- helped 等

無声音を簡単に説明すると、「発音したときにのどが震えない音」のことです。しかし、これではわかりにくいと思いますので、簡単な覚え方を紹介します。下記のことを覚えて下さい。

語尾が以下のアルファベットの動詞は t と発音します。

[p, c, s, ch, sh, f]

(プ・ク・ス・チュ・シュ・フ)

これら6種類のアルファベットで終わる動詞は t と発音します。なお覚え方として、「プクスチュシュフ」と紹介していますが、順番を組み合わせることによってもっと覚えやすいものがあるかもしれません。自分で組み合わせを考えてみるのも効果的だと思います。

実際の発音は、

[〜トゥ]

このようになります。「舌打ち」をする要領でやると上手に発音できます。しかしながら、やはりネイティブの方や英語の先生に発音してもらって、耳で覚えることをお勧めします。

3. 語尾が有声音の動詞…[d]

- opened
- stayed 等

有声音を簡単に説明すると、「発音したときにのどが震える音」のことです。単純に「上記1と2以外の動詞」と覚えて下さい。

実際の発音は、

[〜ドゥ]

このようになります。テレビや映画の副音声を使うと、無料で発音の勉強ができます。

サイト内で、無料で聞ける英語を紹介していますので、興味のある方はご覧下さい。

2. 一般動詞過去形の英作文

1 肯定文

主語＋述語（一般動詞過去形）＋～.

すべての英作文の基本は 主語＋述語（動詞） です。

過去を表すときは、be 動詞で過去を表す場合と同様に、一般動詞を過去形にすれば OK です。

例文： 私は昨晚テレビをみました。

⇒ まずは単語に

私は 昨晚 テレビを みました。

(I) (last night) (TV) (watched).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I watched TV last night. (完成)

動詞を過去形にするだけで過去の文ができます。

余談になりますが、よく質問で、「単語はわかるけど、順番がわからない。」というものがあります。今の文でも、

○ I watched TV last night.

○ I watched last night TV.

どちらかわからない方がいると思います。TV が先か last night が先か？そんな場合は動詞に注目して下さい。動詞の直後には、その目的語がきます。「watch =見る」の意味ですので、見るもの（目的語）を直後に置かなければなりません。従って、TV が watch の直後にきます。

次は書き換えのパターンの例文です。

例文：

「彼女は今日家にいます。」
→ 「彼女は昨日家にいました。」

まずは最初の文を英作文します。

例文： 彼女は今日家にいます。

⇒ まずは単語に

彼女は 今日 家に います。
(She) (today) (at home) (stays).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

She stays at home today. (完成)

さて、ここから過去形に変化させますが、今回は二箇所を変化させます。

います (stays) → いました (stayed)
今日 (today) → 昨日 (yesterday)

の二箇所です。従って、正しい英文は次の文です。

She stayed at home yesterday.

書き換え等の問題で過去形にする場合、動詞を過去形にするだけでは足りない場合があるので注意して下さい。

2 否定文

主語 + **did not (didn't)** + 述語 (動詞の原形) + ～.

現在形での否定文と違う点は、「**do** や **does**」が「**did**」に変わったところです。また主語が3人称に関わらず、動詞を原形にして下さい。

さらに注意すべき点は、「**did not**」の直後の動詞を原形にすることです。

例文： 彼女はパーティーに来なかった。

⇒ まずは単語に

彼女は パーティーに 来 なかった。
(She) (to the party) (come) (did not).

⇒ これを 主語 + **did not** + 述語 + ～. に並べると、

She did not come to the party. (完成)

これで完成です。動詞を原形にすることを忘れないで下さい。

少し難しいと感じる方は、単純に、動詞の直前に **did not (didn't)** を置いて動詞を原形にすると覚えると楽です。

以下に例文がありますのでがんばって理解して下さい。

例文：

[肯定文]

I played baseball yesterday.
(私は昨日野球をしました。)

[否定文]

I did not play baseball yesterday.
(私は昨日野球をしていません。)

[肯定文]

He visited Tokyo last year.

(彼は去年東京を訪れました。)

[否定文]

He did not visit Tokyo last year.

(彼は去年東京を訪れていません。)

3 疑問文

Did + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ～ ?

疑問文は、「～しましたか。」を表す文です。現在形の疑問文と違うのは、**Do** ではなく **Did** を文頭に置くことです。ピリオドを？にすることや動詞を原形にすることも忘れないで下さい。

では、疑問文とその答え方の例文です。

例文： **You learned English.**

(あなたは英語を学びました。)

疑問文：

Did you learn English?

(あなたは英語を学びましたか。)

このように、**Did** を文頭に置くだけで疑問文ができました。次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, + 主語 + did.

「いいえ」の場合

No, + 主語 + did not (didn't).

すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, I did. (はい、学びました。)

No, I did not (didn't). (いいえ、学んでいません。)

現在形の疑問文と異なるのは、「**Do**」が「**Did**」になっている所です。

過去進行形

1. 過去進行形の用法

1 意味

現在進行形は＜be 動詞＋～ing＞の形でしたが、過去進行形では＜be 動詞過去＋～ing＞の形になります。意味は「(そのとき)～していした」です。現在進行形を過去形にするだけなので、現在進行形を理解してからのステップが望ましいです。

例文：

[現在進行形]

He is playing baseball.

(彼はテニスをしています。)

[過去進行形]

He was playing baseball.

(彼はテニスをしていました。)

2 now を then に

現在進行形で使われていた **now** (今) は、過去進行形になると **then** (そのとき) にします。 また **then** のかわりに、「at that time」としても同じ意味です。

例文：

[現在進行形]

I am doing my homework now.

(私は今宿題をしています。)

[過去進行形]

I was doing my homework then.

(私はそのとき宿題をしていました。)

2. 過去進行形の英作文

1 肯定文

主語＋be 動詞過去形＋～ing ＋～.

現在進行形の be 動詞を過去形にするだけです。

例文：

I am watching TV.

(私はテレビをみています。)

この現在進行形の文を、過去進行形にします。be 動詞を過去形にするだけなので、

⇒ be 動詞を過去形に

I was watching TV. (完成)

(私はテレビをみていました。)

どうですか？それほど難しくないと思います。

では、過去進行形をどのような時に使えばいいのかを感覚的に理解するために、一般動詞の過去形と過去進行形を見比べてみて下さい。

例文：

[過去形]

I played tennis.

(私はテニスをしました。)

[過去進行形]

I was playing tennis.

(私はテニスをしていました。)

[過去形]

You studied English.

(あなたは英語を勉強しました。)

[過去進行形]

You were studying English.

(あなたは英語を勉強していました。)

[過去形]

He did his homework.

(彼は彼の宿題をしました。)

[過去進行形]

He was doing his homework.

(彼は彼の宿題をしていました。)

2 否定文

主語 + be 動詞過去形 + not + ~ing + ~.

進行形は be 動詞の文なので、否定文は be 動詞の直後に not をつけます。

例文： 彼女は英語を勉強していなかった。

⇒ まずは単語に

彼女は 英語を

(She) (English)

勉強し ていなかった。

(studying) (was not).

⇒ 主語 + be 動詞過去形 + not + ~ing + ~. に並べると、

She was not studying English. (完成)

(= She wasn't study English.)

現在進行形と同様に、be 動詞の文を理解していれば理解しやすいと思います。

例文：

[肯定文]

I was playing baseball.

(私は野球をしていた。)

[否定文]

I was not playing baseball.

(私は野球をしていなかった。)

[肯定文]

You were reading a book then.

(あなたはそのとき本を読んでいた。)

[否定文]

You weren't reading a book then.

(あなたはそのとき本を読んでいなかった。)

3 疑問文

be 動詞過去形＋主語＋～ing ＋～？

疑問文の作り方も、be 動詞の文と同じです。be 動詞を文頭に持っていきます。

例文：

[肯定文]

You were walking in the park.

(あなたは公園で散歩をしていた。)

[疑問文]

Were you walking in the park?

(あなたは公園を散歩していたか。)

「はい」の場合

Yes, +主語＋be 動詞.

「いいえ」の場合

No, +主語＋be 動詞＋ not.

答え方も be 動詞の文と同じです。すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, I was. (はい、していました。)

No, I was not. (いいえ、していませんでした。)

疑問文も否定文も、be 動詞の文を理解していれば容易に理解できると思います。なかなか理解できない方は、もう一度 be 動詞を復習して下さい。

3. 疑問詞を含む文

これもすべて、be 動詞を過去形にすれば OK です。まだまだわからない方は、まず現在進行形から復習して下さい。

1 What +be 動詞+主語+～ing +～?

意味： 「…は何を～していましたか」

疑問詞+be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： あなたは何を勉強していましたか。

疑問詞は？

“何を”があるので what が文頭

疑問詞…what

疑問文は？

残りの文「あなたは勉強していましたか。」を英作文する

疑問文…Were you studying?

疑問詞+疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

What were you studying?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

I was studying English.

(私は英語を勉強していました。)

2 What +be 動詞+主語+ doing?

意味： 「…は何をしていますか」

これは文を暗記してください。

例文： あなたは何をしていましたか。

⇒ What were you doing?

必ず暗記して下さい。

進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

I was reading a book then.

(私はそのとき本を読んでいた。)

3 Who + was +～ing +～?

意味： 「誰が～していましたか。」

疑問詞+be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： 誰がピアノを弾いていましたか。

疑問詞は？

“誰が”があるので who が文頭

疑問詞…who

疑問文は？

残りの文「ピアノを弾いていましたか。」を英作文する

疑問文…Was playing the piano?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Who was playing the piano?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

John was (playing the piano) .

(ジョンがピアノを弾いていました。)

この場合、ジョンがピアノを弾いていたことは分かりきっていますので、カッコの中は省略しても構いません。

4 Where +be 動詞＋主語＋～ing ＋～？

意味： 「どこへ～していましたか。」

疑問詞＋be 動詞の疑問文で出来上がります。では、英作してみます。

例文： ユミはどこへ行っていましたか。

疑問詞は？

“どこへ” があるので **where** が文頭

疑問詞…where

疑問文は？

残りの文「ユミは行っていましたか。」を英作文する

疑問文…Was Yumi going?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Where was Yumi going?

これで OK です。進行形で聞かれていますので、答えも進行形です。

[答え]

She was going to Mako's house.

(彼女はマコの家に行っていました。)

どうでしょうか、わかりましたか？わかりにくい方は、be 動詞の現在形から総復習すると力がつくと思います。諦めずに根気よく学習して下さい。

感嘆文

1. 感嘆文の英作文

感嘆文は、「なんて～なんでしょう」と感情をこめて表現する言い方です。

例文：

What a beautiful flower this is!

How beautiful this flower is!

(これはなんて美しい花でしょう。)

上の例文は両方同じ意味です。感嘆文には2つの言い方があるので覚えて下さい。

1 What a (an) + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞！

1 つめは **What** で始まる言い方で、名詞を強めます。最後の感嘆符（！）も忘れないようにして下さい。

例文：

What a smart boy he is!

(彼はなんて賢い少年でしょう。)

語順さえ覚えれば簡単だと思います。また、名詞が複数形なら冠詞はいりません。

例文：

What expensive books he has!

(彼はなんて高価な本を持っているのでしょうか。)

2 How + 形容詞（副詞） + 主語 + 動詞！

2つめは **How** で始まる言い方です。形容詞や副詞>を強めます。これにも感嘆符は必要です。

例文：

How short this pencil is!

(この鉛筆はなんて短いのでしょう。)

5 cm くらいの鉛筆を巧みに使っている人がいます。あれには感心させられます。

How の表現も、語順をしっかり覚えればそれほど難しくはないと思います。

2. 感嘆文の応用

1 主語＋動詞の省略

感嘆文では、主語と動詞を省略することがあります。

○ **What a (an) + 形容詞** !

例文：

What a high building!

(なんて高いビルでしょう。)

○ **How + 形容詞 (副詞)** !

例文：

How nice!

(なんてすてきでしょう。)

2 疑問文との区別

What, How で始まる疑問文と感嘆文を区別しなければなりません。しかし、符号に注意すれば難しくありません。

○ 感嘆文…感嘆符で終わる

例文：

What a nice bag you have !

(あなはなんてすてきなカバンを持っているのでしょう。)

How fast he can run!

(彼はなんて速く走れるのでしょう。)

○ 疑問文…疑問符で終わる

例文：

What book is that?

(あれは何の本ですか。)

How tall is she?

(彼女の身長はいくつですか。)

感嘆文は、どちらかというと女性がよく使います。また、一番簡単に強調を表現したければ、強調したい語を強く発音すれば OK です。

未来形

1. 未来形とは？

未来形とは、未来のことを表す表現です。**will** という助動詞を使います。また **will** の代わりに、**be going to** を使っても表すことができます。

2. 未来形の英作文

1 肯定文

主語 + **will** + 述語（動詞の原形） + ．

例文： 私は明日買い物に行くつもりです。

⇒ まずは単語に

私は 明日 買い物に
 (I) (tomorrow) (shopping)
 行く つもりです。
 (go) (will).

⇒ これを 主語 + **will** + 述語 + ． に並べると、

I will go shopping tomorrow. (完成)

主語が 3 人称単数でも **will** + 動詞の原形です。

例文： 彼女は来年 12 歳になります。

⇒ まずは単語に

彼女は 来年
 (She) (next year)
 12 歳に になります。
 (twelve years old) (will be).

⇒ これを 主語 + **will** + 述語 + ． に並べると、

She will be twelve years old next year. (完成)

be 動詞を使う文では、原形である **be** を使います。

2 否定文

主語 + **will not (won't)** + 述語 (動詞の原形) + ～.

will の直後に **not** を置くだけです。

例文： 彼らは明日サッカーの練習をしないでしょう。

⇒ まずは単語に

彼らは 明日 サッカーの
(**They**)(**tomorrow**)(**soccer**)
練習を しないでしょう。
(**practice**)(**will not**).

⇒ これを 主語 + **will not** + 述語 + ～. に並べると、

They will not (won't) practice soccer tomorrow. (完成)

このようになります。

元々できあがっている **will** の肯定文を否定文に変化するには、**will** の直後に **not** を置くだけです。

例文：

[肯定文]

It will rain tomorrow.
(明日は雨が降るでしょう。)

[否定文]

It will not rain tomorrow.
(明日は雨が降らないでしょう。)

3 疑問文

Will + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ～ ?

Will を文頭に持っていきだけで疑問文が完成します。

例文：

He will come to school tomorrow.

(彼は明日学校に来ます。)

この文を疑問文にします。**will** を文頭に持っていきだけです。

⇒ **Will he come to school tomorrow?**

(彼は明日学校に来ますか。)

次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, +主語+ will.

「いいえ」の場合

No, +主語+ will not (won't).

すぐ上の疑問文に答えてみます。

答え方：

Yes, he will.

(はい、来るでしょう。)

No, he will not (won't).

(いいえ、来ないでしょう。)

同じ助動詞の **can** と作り方は同じです。

3. will の書き換え

○ will = be going to + 動詞の原形

このページの最初でも書きましたが、will は be going to + 動詞の原形に書き換えることができます。

例文：

I will be ten years old next year.

= I am going to be ten years old next year.

(私は来年10歳になります。)

Will they come tomorrow?

= Are they going to come tomorrow?

(彼らは明日来ますか?)

It won't be fine next Sunday.

= It isn't going to be fine next Sunday.

(次の日曜日は晴れないでしょう。)

以上のように、どちらを使っても正しい英文です。

実際のテスト等では、指定がない限り will と be going to のどちらを使っても OK です。ただ can など、他の助動詞がある文では注意が必要です。

なぜなら助動詞 + 助動詞というように、助動詞を続けて使うことはできないからです。これについての詳しい解説は can にありますので、ご覧下さい。

再帰代名詞

1. 再帰代名詞とは？

再帰代名詞とは、「～自身」を意味する語のことです。

単数＝～self	複数＝～selves
myself (私自身)	ourselves (私たち自身)
yourself (あなた自身)	yourselves (あなたたち自身)
himself (彼自身)	themselves (彼ら自身)
herself (彼女自身)	themselves (彼女ら自身)
itself (それ自身)	themselves (それら自身)

1 人称と 2 人称は「所有格＋self, selves」、そして 3 人称は「目的格＋self, selves」で再帰代名詞ができあがります。

2. 再帰代名詞の用法

1 強調するために使う

通常は文末に置いて「～自身が」の意味で使われ、「誰が」という言葉を強めます。代名詞や名詞の直後に置かれる場合もあります。

例文：

I broke the window myself.

(私自身が窓を割ったのです。)

窓を割った犯人が自分であることを強調しています。

2 動詞の目的語として使う

これは「自分に～をする」場合に使われる表現です。主語と同じ人称の再帰代名詞を使います。

例文：

They said to themselves, "Take it easy."

(彼らは彼ら自身に「気楽にやろう」と言いました。)

I will give myself a new car as a reward.

(私はご褒美として自分自身に新車を買ってあげるつもりです。)

3 慣用表現として使う

再帰代名詞を含む慣用表現がいくつかあります。

○ by+～self

意味： 「ひとりで、ひとりでに」

例文：

He wanted to finish his homework by himself.

(彼はひとりで宿題を終わらせたかったのです。)

The car stopped by itself.

(その車はひとりでに止まりました。)

○ beside+～self

意味： 「われを忘れて」

例文：

They were beside themselves with joy.

(彼らはわれを忘れて喜んでいました。)

○ for＋～self

意味： 「自分のために」

例文：

I studied very hard for myself.

(私は自分のために一生懸命勉強しました。)

接続詞 2

ここでは **that** 節と間接疑問文を紹介します。基本的に中学で習うものですが、一部高校の内容も含まれています。

1. that 節

1 that 節とは？

that は「主語＋動詞」の節をくっつける働きをするものです。そして、that 以下は「～すること」を意味する、名詞と同じ働きをする節になります。

例文：

I know that you will change your school.

S V O (名詞節)

(私は君が引っ越すことを知っている。)

2. that 節の用法

that 節は名詞節を作るので名詞と同じ働きをします。だから、「主語・補語・目的語」になることができます。

1 主語になるパターン

○ It is $\cdots$ that $\sim$.

意味：「～ことは…だ」

that 節をそのまま主語にしても構いませんが、主語になる場合は形式主語の *it* を用いるのが一般的です。

例文：

[形式主語 It]

It is certain that you are very hungry.

形式主語

真主語

(君が腹を空かしているのは当然だ。)

※こちらのほうが一般的です

[that 節をそのまま主語]

That you are very hungry is certain.

S V C

(君が腹を空かしているのは当然だ。)

※形式主語 It を使うほうが一般的です

このように、形式主語 It を使っても使わなくても英作はできますが、It を使ったほうが一般的です。

では、もう 1 つ例文を紹介します。

例文：

It is true that I won the game.

(私が試合に勝ったことは本当だ。)

この例文では true、そして上の例文では certain が出てきていますが、この「It is … that 〜」の…部分に使われる単語はある程度決まっています。その中でもよく使うものを紹介します。

- interesting (おもしろい)
- surprising (驚き)
- sad (悲しい)
- unbelievable (信じられない)
- a pity (残念なこと)
- strange (変な)
- a lie (うそ)
- natural (当然) 等

これらがよく使われます。

2 補語になるパターン

○ … is that ～.

意味： 「…は～ことだ」

例文：

The problem is that it rains heavily.

S V C

(問題はひどく雨が降っていることだ。)

The question is that he wasn't there.

S V C

(問題はそこに彼がいなかったことだ。)

ここで使っている problem, question 以外では、fact (真実)がよく使われます。

3 目的語になるパターン

目的語になる場合は、通常2通りのパターンがあります。そして、目的語を作る that は省略できます。

○ 主語+動詞+that ～.

意味： 「…が～ことを…」

例文：

I believe that you can come.

S V O

(私は君が来られることを信じています。)

この例文では believe を使っていますが、ここで使われる動詞はある程度決まっています。その中でも良く使うものを紹介します。

○ think (思う)

- know （知っている）
- hear （聞く）
- hope （望む）
- expect （期待する） 等

これらがよく使われます。

- 主語＋be＋形容詞＋that ～.

意味： 「…が～ことを…」

例文：

I am sorry that I lost your game.

（あなたのゲームをなくしてごめんなさい。）

この例文では **sorry** を使っていますが、ここで使われる形容詞はある程度決まっています。その中でも良く使うものを紹介します。

- afraid （心配している）
- sure （確信している）
- happy （嬉しい）
- glad （喜んでいる） 等

これらがよく使われます。

3. 間接疑問文

1 間接疑問文とは？

疑問詞から始まる名詞節を間接疑問文といいます。1と2で **that** 節を解説していますが、その **that** が疑問詞に変わった形だと思って下さい。

例文：

I don't know when he comes.
 S V 間接疑問文（名詞節）
 （私は彼がいつ来るのか知りません。）

4. 間接疑問文の用法

基本的に **that** 節と同じで名詞節を作り、「主語・補語・目的語」になることができます。また、「主語・補語・目的語」のいずれの場合も「疑問詞＋主語＋動詞」の語順になります。

1 主語になるパターン

○ It is … + 間接疑問文.

間接疑問文の作る節をそのまま主語にしても構いませんが、主語になる場合は形式主語の **it** を用いるのが一般的です。

例文：

[形式主語 It]

It is clear who broke this window.
 形式主語 真主語
 （誰がこの窓を割ったかは明らかだ。）
 ※こちらのほうが一般的です

[間接疑問文をそのまま主語]

Who broke this window is clear.
 S V C

(誰がこの窓を割ったかは明らかだ。)

※形式主語 It を使うほうが一般的です

このように、形式主語 It を使っても使わなくても英作はできますが、It を使ったほうが一般的です。

例文：

It is unclear who comes.

(誰が来るのか不明です。)

2 補語になるパターン

○ … is + 間接疑問文.

例文：

The problem is where he lives.

S V C

(問題は彼がどこに住んでいるかだ。)

The question is where she went.

S V C

(問題は彼女がどこにいったかです。)

3 目的語になるパターン

○ 主語＋動詞＋間接疑問文.

例文：

I know why she was scolded.

S V O

(私はなぜ彼女が叱られたかを知っています。)

I don't know what you bought.

S V O

(私はあなたが何を買ったのか知りません。)

5. do you think + 間接疑問文

間接疑問文でよく出題されるのが、この「do you think + 間接疑問文」形です。do you think と間接疑問文をくっつける場合は、疑問詞を文頭に置きます。疑問文なので？も忘れないで下さい。

例文：

do you think
+ what she wants
= What do you think she wants?
(あなたは彼女が何を欲しいと思いますか。)

do you think
+ how much that hat is
= How much do you think that hat is?
(あなたはあの帽子がいくらだと思いますか。)

how much は、how much で1つの疑問詞だと考えてください。how だけを文頭に持っていくではありません。

○ 答え方 I think (that) ~.

「～と思いますか。」と聞かれていますので、「I think (that) ~.」の形で答えます。

またこの「I think (that) ~.」の形は、このページの2. 3で解説している that 節が目的語になるパターンです。よって、think の直後の that はあってもなくても構いません。

例文：

[疑問文]

Who do you think that man is?

(あの男性は誰だと思えますか。)

[答え]

= I think (that) he is Bob's brother.

(彼はボブの兄弟と思うよ。)

所有代名詞

1. 所有代名詞とは？

所有代名詞とは、「～のもの」を意味し、「所有格＋名詞」と同じ働きをする語のことです。

		単数			
		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1 人称	私	I	my	me	mine
2 人称	あなた	you	your	you	yours
3 人称	彼	he	his	him	his
	彼女	she	her	her	hers
	それ	it	its	it	-
他名詞		Mike	Mike's	Mike	Mike's

		複数			
		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1 人称	私達	we	our	us	ours
2 人称	あなた達	you	your	you	yours
3 人称	彼ら	they	their	them	theirs
	彼女ら				
	それら				

この表の所有代名詞の列について解説していきます。所有代名詞以外は人称代名詞のページをご覧ください。

2. 所有代名詞の用法

1 同じ語の繰り返しを避ける

例文を見て下さい。

例文：

That book is my book.
(あの本は私の本です。)

英語では、1度出た単語の繰り返し使用をなるべく避けます。この文では book が繰り返されていますので、

my book → mine
(私の本 → 私のもの)

このように、所有代名詞を使うことで単語の繰り返しを防ぐことができます。ですから上の例文は、

That book is mine.
(あの本は私のものです。)

こうするのが望ましいです。

2 「冠詞・指示代名詞＋所有格」の形を避ける

○ 名詞＋ of ＋所有代名詞

「a, the」の冠詞や、「this, that」などの指示代名詞は所有格と一緒に使えません。例えば次の文を見て下さい。

例文：

I lend the my book to you.
(私がその私の本をあなたに貸しましょう。)

Can I use this your dictionary?

(このあなたの辞書を使っていい。)

これらの文で問題となるのが、

the my book (その私の本)

this your dictionary (このあなたの辞書)

この部分です。英語では、「冠詞＋所有格」、「指示代名詞＋所有格」の語順はしてはいけません。この語順を避けるために、所有代名詞を使います。

実際の方法は、「名詞＋ of ＋所有代名詞」の形にすれば OK です。

× I lend the my book to you.

○ I lend the book of mine to you

(私がその私の本をあなたに貸しましょう。)

× Can I use this your dictionary?

○ Can I use this dictionary of yours?

(このあなたの辞書を使っていい。)

このようにして下さい。

There is ～の文

1. There is ～とは？

There is ～は、「…に～がある」という意味です。非常に使いやすい構文なので、必ず覚えて下さい。

この文は **be** 動詞を使うので、英作文の方法は **be** 動詞と同じです。ちなみに、この構文は第5文型です。

2. There is ～の英作文

1 肯定文

There is (are) + 物 + 場所

意味： 「… (場所) に～ (物) があります」

例文：

There is a book on the desk.

(机の上に本があります。)

過去形にする場合は **be** 動詞を過去形にします。詳しくは **be** 動詞過去形のページをご覧ください。

例文：

There was a cat under the table.

(テーブルの下に猫がいました。)

名詞が複数形になる場合は、**be** 動詞を **are** にします。

例文：

There are some books on the desk.

(机の上に数冊かの本があります。)

不可算名詞がくることもあります。その場合は **is (was)** で OK です。

例文：

There is a little coffee in the cup.

(コップに少しコーヒーがあります。)

2 否定文

There is (are) not + 物 + 場所

意味： 「… (場所) に～ (物) ありません」

be 動詞の文なので、否定文は be 動詞の直後に not をつけます。

[現在形]

例文：

There is not a book on the desk.

(机の上に本がありません。)

[過去形]

例文：

There was not a cat under the table.

(テーブルの下に猫がいませんでした。)

[複数形]

例文：

There are not any books on the desk.

(机の上に一冊も本がありません。)

※some を any にすることを忘れないで下さい。

3 疑問文

Is (Are) there + 物 + 場所

意味： 「… (場所) に～ (物) ありません」

be 動詞の文なので、疑問文は be 動詞を文頭に持っていきます。? を忘れないで下さい。

[現在形]

例文：

Is there a book on the desk?

(机の上に本がありますか。)

[過去形]

例文：

Was there a cat under the table?

(テーブルの下に猫がいましたか。)

[複数形]

例文：

Are there any books on the desk.

(机の上に何冊か本がありますか。)

※some を any にすることを忘れないで下さい。

「はい」の場合

Yes, there is (are).

「いいえ」の場合

No, there is (are) not.

答え方は単純で、状況に応じて be 動詞を変化すれば OK です。

○ 現在形

[疑問文]

Is there a book on the desk?

(机の上に本がありますか。)

[答え]

Yes, there is.

(はい、あります。)

No, there is not.

(いいえ、ありません。)

○ 過去形

[疑問文]

Was there a cat under the table?
(テーブルの下に猫がいましたか。)

[答え]

Yes, there was
(はい、いました。)
No, there was not.
(いいえ、いませんでした。)

○ 複数形

[疑問文]

Are there any books on the desk?
(机の上に何冊か本がありますか。)

[答え]

Yes, there are.
(はい、あります。)
No, there are not.
(いいえ、ありません。)